

JMFF

日機連週報

第3540号 2026年2月13日(金)

CONTENTS

● 委員会報告

技術イノベーション研究委員会

「イノベーション技術+サプライチェーンをグローバルで実現する
デルのエコシステム構築 ～ システムインテグレーターから
技術アグリゲーターの時代～」について聞く

● 日機連の動き

ロボット革命・産業IoT イニシアティブ協議会(RRI)

講演会【Physical AIが切り拓くロボットの実用化】の開催について

● 会員イベント情報

(一社) 日本包装機械工業会 「産学連携セミナー」

『食品開発から包装をつなぐ品質設計』開催のご案内

● お知らせ

(一社) 日本印刷産業機械工業会他 「IGAS2027国際総合印刷テクノロジー
&ソリューション展」 出展募集開始のお知らせ

(一社) 日本分析機器工業会 「JASIS 2026(分析機器・科学機器総合展)
— 「測る」が支える未来の社会 —」 出展募集開始のお知らせ

厚生労働省 「春季における年次有給休暇取得促進」について

● 機械のチカラ(第13回)

(一社) 日本印刷産業機械工業会と印刷機械に関する情報

日機連ではホームページを開設しておりますのでご利用下さい。

URL : <https://www.jmf.or.jp>

[バックナンバーはこちらから](#)

<禁無断転載>

● 委員会報告

技術イノベーション研究委員会

「イノベーション技術+サプライチェーンをグローバルで実現する
デルのエコシステム構築 ～ システムインテグレーターから
技術アグリゲーターの時代～」について聞く

技術イノベーション研究委員会（委員長・岡 徹 三菱電機株 上席執行役員 知的財産担当 開発本部長）は 1 月 21 日(水)に第 13 回委員会を開催した。デル・テクノロジーズ株式会社 OEM ソリューション事業本部 ビジネス・ディベロップメント・マネージャーの大高聡明(おおたか としあき)氏から、「イノベーション技術+サプライチェーンをグローバルで実現するデルのエコシステム構築 ～ システムインテグレーターから技術アグリゲーターの時代～」と題して説明を聞き、意見交換した。（文責：日機連）。



大高聡明氏

【大高氏講演要旨】

1. デル・テクノロジーズOEMソリューションの紹介

デル・テクノロジーズは、顧客のビジネス拡張を支援するため 2 つのアプローチを提供している。第一に、社内 IT 向けとして、クライアント、サーバー、ストレージなど社内 IT 消費要件への包括的な対応を行う。第二に、ビジネス商材提供として、顧客の知的財産(IP)を自社の IP に組み込むことで、顧客がエンドユーザーへ新ソリューションを再販できるよう支援する。

こうした取り組みを通じて、20 年以上にわたり顧客のインテリジェントトランスフォーメーションを支援してきた。その実績は、米国 Fortune100 企業の 69%が自社エッジソリューションにデル技術を採用していることから明らかである。デルの対応業界は、機械・製造、土木・建設、防衛、エネルギー、ヘルスケア、テレコムなど多岐にわたる。各業界の特性に応じて、自動化、予知保全、機械制御、資

産監視、品質保証、ビデオ分析といった産業固有のニーズに対応したソリューションを展開している。

これらのソリューション提供を支えているのが、OEM ソリューションの高度なカスタマイズ機能である。ブランディング・パーソナライズ、適合性・機能の最適化、特殊環境への対応設計など、顧客要件に合わせた柔軟な製品開発が可能となっている。主力製品ラインナップは用途別に最適化されており、医療・分析機器向けには長寿命・安定性重視モデル、製造業・プラント向けには耐熱・防塵性能を備えたモデル、緊急車両・建設現場向けには振動耐性に優れたラグド PC、過酷な環境下での使用を想定した耐環境ノート PC・タブレットなどを揃え、顧客固有の要件に応じた最適な製品提供を実現している。

2. デル・テクノロジーの技術獲得:技術アグリゲーターとしてのエコシステム構築

2.1. デル・テクノロジーの歴史の変遷

デル・テクノロジーの歩みは、創業期から現在まで一貫した成長と変革の歴史である。1984 年、マイケル・デルがテキサス大学の学生寮でわずか 1000ドルを元手に「PC's Limited」を創業したことに始まる。1988 年には株式公開とグローバル展開を果たし、社名を「Dell Computer Corporation」に変更した。1990 年代には、効率的なサプライチェーンとオンライン直販モデル (dell.com)により、PC システムの世界 No.1 プロバイダーへと成長を遂げた。



2000 年代に入ると、「PC メーカー」から「IT ソリューション企業」への戦略的転換期を迎えた。サーバー、ストレージ、サービスへの大規模投資を通じて、企業向けインフラ・ソリューションを拡充し、年間数百億ドル規模の企業へと成長した。2013 年には転機が訪れる。マイケル・デルによる非公開化(約 249 億ドル)が実施され、四半期ベースの短期志向から離れ、長期的な成長と変革に集中する体制を構築した。この決断が、その後の大胆な事業展開を可能にした。2016 年、エンタープライズストレージ分野のリーダーである EMC グループを買収し、PC からデータセンター、クラウド、セキュリティまでを包括するエンドツーエンドのインフラ企業「Dell Technologies」が誕生した。この統合により、単なるハードウェアベンダーから、包括的なテクノロジー・プラットフォーム提供者へと進化を遂げた。2018 年には、「Dell Technologies」として NYSE に再上場を果たし、グローバルリーダーとしての地位を確立した。

DELL Technologies

現在、180 以上の国々で事業を展開し、Fortune500 企業の 99%以上を含む幅広い顧客基盤を有している。年間 1000 億ドル規模の事業を展開する現在、AI 時代における「デジタル基盤パートナー」としての役割を担っている。

2.2. デル・テクノロジーのパーパスと事業の本質:技術アグリゲーターとしての位置づけ

デルは「人類の進歩を加速するテクノロジーを創造する」というパーパスを掲げている。しかし、この「テクノロジーの創造」の真の意味を理解することが重要である。サーバー、ストレージ、PC などのハードウェア製造・販売メーカーとして、顧客の機能・能力を実装する手段(汎用機器)を提供している。

一方で、社会実装する機能・能力そのものの技術開発は行っておらず、また技術成熟度(TRL)が低～中の破壊的技術の研究開発を自社では実施していない。

それにもかかわらず年間 1000 億ドル規模の事業を展開できているのは、「技術アグリゲーター」として独自の価値を創造しているからである。技術アグリゲーターとは、既存の技術を戦略的に集約・統合し、顧客が実際に活用できる形で提供することで新たな価値を創造する存在である。この点において、Sler(システムインテグレーター)とは明確に異なる立場にある。Sler が顧客のために最終的なシステムを構築するのに対し、技術アグリゲーターであるデルは、その Sler が必要とするハードウェアやシステム基盤を提供する役割を担っている。デルは技術提供者の機能を実現するための手段提供者であり、技術提供者や Sler と競合しない明確な立場を取っている。この「触媒」としての役割こそが、デルのビジネスモデルの本質である。



デルの戦略的意思決定を支えているのが、技術成熟度カーブと市場成熟度の体系的な分析である。これらの指標を用いて、どの技術にいつ投資すべきかを戦略的に判断している。その特徴は、意思決定のスピードの速さと、投資の引き際の見極めの的確さにある。問題が生じた際には、原因追及に時間を費やすのではなく、問題解決に即座に注力する姿勢を貫いている。こうした迅速な意思決定と実行力により、AI/ML、マルチクラウド、エッジ、5G、データマネジメント、セキュリティといった戦略的技術分野に的確に注力し、キャッシュポジティブな健全経営を維持している。

2.3. パートナー・エコシステム統合・連携によるイノベーション創出

デルのイノベーション創出の中核にあるのが、オープンなパートナー・エコシステムとの統合・連携である。NVIDIA、AMD、主要クラウドプロバイダー、ISV(独立系ソフトウェアベンダー)、スタートアップなど多様なパートナーと協業し、Dell 製品とパートナー技術を統合したソリューションとして市場に提供している。



その代表的な取り組みが「The Open Telecom Ecosystem Lab (OTEL)」である。テキサス州には「デル村」と呼ばれる大規模開発拠点があり、OTEL はそこを中核として世界中にオープンなテレコムエコシステムの構築を加速しており、開発の簡素化を実現している。OTEL は通信業界における技術協業のハブとして機能し、パートナー企業のイノベーションを加速・簡素化する役割を果たしている。OTEL が提供する機能は多岐にわたる。パートナー・業界認証、Proof of Concept(概念実証)、ソリューション検証、デモ・トレーニングラボといった包括的な機能により、テレコム分野における次世代技術の検証と統合を支援している。

特に注目すべきは「自己認証(Self Certification)」プログラムである。このプログラムは、革新的なスタートアップ企業や中小規模の ISV が、手間が少なく無償で最新の通信機器へアクセスできる仕組みを提供している。さらに、CSP(通信サービスプロバイダー)やエンタープライズ顧客へのアクセス機会も得られるため、技術提供者にとって市場参入の大きな障壁を取り除くものとなっている。

開発環境の構築には通常、多大な時間とコストがかかる。しかし、大規模な AI 等の開発・評価環境を既に整備し提供することで、パートナーの開発期間を大幅に短縮している。このプログラムを通じて、各社のソフトウェア品質が Dell Technologies のテレコムプラットフォーム上で安定した導入に適合していることを保証している。OTEL は、イノベーションにおける最大の障壁であるリスクとコストを削減

し、価値実現までの時間を短縮することで、顧客のビジネス変革を実質的に支援している。

2.4. デル・テクノロジーズのオープンエコシステムの魅力

なぜ、全世界で数千社がデル・テクノロジーズに技術を提供し、協業を望むのか。その答えは、デルが構築したオープンエコシステムの圧倒的な魅力にある。

第一の魅力: 真のオープン性 デル製品に縛らないオープンなエコシステムをグローバルで構築している。技術提供者は自社技術の実装において、デル製品のみ限定されることなく、幅広いインフラストラクチャーラインナップの中から最適な組み合わせを選択できる。技術を無理に modify することを求めず、共通項を見出しながら汎用化を進めることで、技術提供者の本来の価値を最大限に引き出す方針を取っている。

第二の魅力: 即座に利用可能な開発・評価環境 大規模な AI 等の開発・評価環境を提供している。テキサスの「デル村」をはじめとする開発拠点では、通常であれば構築に数ヶ月から年単位の時間を要する高度な開発環境が既に整備されている。技術提供者は申請後、即座に自社技術の検証・評価を開始でき、製品化までの時間を劇的に短縮できる。この時間短縮効果は、特にスタートアップ企業にとって市場投入タイミングを左右する決定的な要因となる。

第三の魅力: グローバル市場への即座のアクセス デルのグローバルで多種多様な業種の顧客にリーチ可能という点は、技術提供者にとって計り知れない価値がある。180 以上の国々で事業を展開し、Fortune500 企業の 99%以上を含む幅広い顧客基盤を有している。技術提供者にとって、自力では到達困難なグローバル市場、特にエンタープライズ顧客層へのアクセスが、デルとの協業によって一気に実現する。これは、グローバル展開に必要な営業拠点、サポート体制、信頼構築という膨大な投資を回避できることを意味する。

第四の魅力: 年間 1000 億ドル規模の販売力 デルの卓越した販売力は、技術提供者にとって最も魅力的な要素の一つである。単にハードウェアを売るのではなく、技術提供者のソリューションの価値を理解し、それを軸としてハードウェアを販売する。技術提供者の価値を顧客に的確に伝え、ソリューション全体として提案することで、真の Win-Win 関係を構築している。年間 1000 億ドル規模という売上が証明するこの販売力と販売チャネルを活用できることは、技術提供者のビジネス成長を大きく加速させる。

第五の魅力: 横展開力による投資効率の最大化 共通的なアーキテクチャとフレームワークを構築し、業種や顧客ごとに専用設計を行わず、カスタマイズを最小化して様々な業界・顧客に横展開する能力に優れている。この「横展開力」により、技術提供者が一度開発した技術を、製造業、ヘルスケア、テレコム、エネルギーなど多様な業界・顧客に適用できるため、技術提供者の投資効率が飛躍的に向上する。全てを自社に取り込もうとせず、各技術提供者の強みを最大限に活かす戦略を一貫して取っている。

第六の魅力: 競合しない明確な立場 デルは技術提供者の機能を実現するための手段提供者であ

り、技術提供者やその顧客と競合しないという明確な立場を堅持している。「触媒」として機能し、技術提供者が顧客に価値を届けるための最適な基盤を提供する。この触媒としての役割が、顧客にも技術提供者にも広く認知され、信頼されていることが、エコシステムの持続的成長と拡大を支えている。

さらに、チップメーカーを含む多くのテクノロジー企業がデル・テクノロジーズに戦略的投資を行っていることも、エコシステムの魅力と信頼性を裏付けている。デルのグローバル感覚、キャッシュポジティブな健全経営、スピーディーな意思決定、そして投資の引き際の見極めの的確さが、パートナー企業から極めて高く評価されている。

2.5. 製造業の大転換を支える技術統合

デル・テクノロジーズが技術アグリゲーターとして統合・提供している破壊的技術は、製造業に根本的な変革をもたらしている。その中核となるのが、OT(Operational Technology: 制御技術)とIT(Information Technology: 情報技術)の融合である。この融合を実現する技術要素として、プライベート通信網・5G、サステナビリティと効率性の追求、デジタルツイン、高度なデータ分析が挙げられる。これらの技術を個別に提供するのではなく、統合されたソリューションとして提供することで、製造現場のリアルタイムデータ収集から分析、最適化、実行までを一気通貫で実現している。これにより、製造業のデジタルトランスフォーメーションが加速され、生産性向上、品質管理の高度化、予知保全の実現、エネルギー効率の最適化といった具体的な成果が生まれている。

技術アグリゲーターとしてのデルの本質的な強みは、この「つなぐ力」「統合する力」にある。個別には存在する優れた技術を、顧客が実際に使える形に統合し、価値として届ける能力である。この能力こそが、年間 1000 億ドル規模のビジネスを支える基盤となっている。今後もこの「触媒」としての役割を通じて、パートナー企業と協業し、「人類の進歩を加速するテクノロジーの創造」というパーパスを実現し続けていく。



〔業務部〕

日機連の動き

- 大阪事務所では、2 月 6 日(金)、第 130 回環境配慮事例研究会(代表幹事・馬場 昭 (株)ダイヘン 環境マネジメントシステム部長)を日機連大阪事務所(大阪市北区)で開催し、各社提出の事前資料「CO2 削減貢献量の考え方、削減貢献量算定方法について」を基に、情報交換を行った。



○ 今後の会合予定

開催日時		会 合 概 要	場 所
2月	19日(木) 13:30~	第 104 回社員満足向上懇話会・実務担当者部会(大阪事務所)	梅田センタービル 16 階
	19日(木) 14:00~	第 14 回 GX 研究委員会 テーマ:「BlueRebirthに関する講演(仮)」 講師:(株)野村総合研究所 エネルギー産業コンサルティング部 環境循環ドメイン 樹 世中 様	日機連会議室 1
	20日(金) 14:30~	第 15 回企業マネジメント研究委員会 テーマ:「株式市場が求める資本コスト経営と企業価値向上」 講師:一橋大学大学院 経営管理研究科 教授 野間 幹晴様	日機連会議室 1
	25日(水) 14:00~	第 2 回機械安全標準化特別委員会、機械安全推進特別委員会(合同会議)	日機連会議室 2
	26日(木) 14:00~	第 14 回技術イノベーション研究委員会 テーマ:「高付加価値設計・製造を実現する統合型レーザー金属積層造形技術の研究開発(仮)」 講師:大阪大学 接合科学研究所 教授 塚本 雅裕 様	日機連会議室 1 お試し WEB 参加募集中

	26 日(木) 15:00～	25 年度第 3 回関西製造業における事業継続能力向上戦略 調査専門部会・交流会	日機連 大阪事務所
	27 日(金) 14:30～	第 14 回 GVC 研究委員会 テーマ:「グローバルガバナンスの変容と経済安全保障を踏まえた 対外投資～脱炭素を含めた世界の潮流変化と AZEC の将来像～ (仮)」 講師:(株)国際協力銀行 常務執行役員 インフラ・環境ファイナンス部門長 関根 宏樹様	日機連会議室 1 お試し WEB 参加募集中
3 月	2 日(月) 13:30～	ロボット大賞 ノミネート委員会	日機連会議室 1
	5 日(木) 15:30～	第 100 回(2025年度第4回)関西事業活力研究委員会(大 阪事務所)	ホテル阪急 インターナショナル
	7 日(土)	関西日機連杯(大阪事務所)	兵庫県加古川市

ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会(RRI) 講演会【Physical AI が切り拓くロボットの実用化】の開催について

ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会(RRI)が 2026 年 2 月 27 日(金)10:15～12:00 に開催する予定の講演会【Physical AI が切り拓くロボットの実用化】参加者募集についてお知らせします。

講演会【Physical AI が切り拓くロボットの実用化】

RRI・マニピュレーション委員会(委員長:大阪大学 原田教授)では、ロボット分野における世界的な第一人者をお招きし、講演会を開催しています。昨年 10 月には、中国・UBTECH Research 副総裁・副院長の龐 建新博士より、中国におけるヒューマノイドロボット開発の最前線をご紹介頂きました。

今回は、Physical AI・ロボティクスの第一人者である、UC Berkeley 教授/Ambi Robotics 共同創設者・Chief Scientist の Ken Goldberg 氏をお招きします。

本講演では、なぜ大規模言語・視覚モデルだけでは実世界で確実に動作するロボットは実現できないのか、そして実運用環境で収集されるロボットデータがどのように性能向上と産業導入を加速するのかについて、研究と実装の両面から解説して頂きます。

ロボット知能、VLA、ロボットの社会実装に関心をお持ちの技術者の皆様にとって、多くの示唆が得られる講演だと思っております。ぜひご参加下さい。

記

- 日時:2026 年 2 月 27 日(金)10:15-12:00
Gordberg 氏講演(英語) 10:15-11:20 (講演 50 分+質疑 15 分程度)
原田先生によるエッセンスの解説(日本語) 11:20-12:00

■形式:オンライン

■参加費:無料

■講師

Ken Goldberg(ケン・ゴールドバーグ) カリフォルニア大学バークレー校 教授。ロボットマニピュレーション、把持・操作学習、クラウドロボティクス分野を長年牽引する世界的研究者。実環境で稼働するロボットからの大規模データ活用を基盤としたロボット知能研究を進めるとともに、Ambi Robotics 共同創設者・Chief Scientist として産業応用にも取り組んでいる。

【参加申し込み】

* 本講演会は大阪大学との共同開催です。

詳細は、RRI のホームページを参照下さい。<https://www.jmfrri.gr.jp/events/events-9328/>



ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会

Robot Revolution & Industrial IoT Initiative

〔ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)〕



日機連会議室より
夕暮時の富士山影


 会員イベント情報

 (一社) 日本包装機械工業会 「産学連携セミナー」
 『食品開発から包装をつなぐ品質設計』開催のご案内

一般社団法人 日本包装機械工業会では、包装業界における産学連携を通じた実社会への応用や新たな付加価値の創出、並びに将来の商品・技術開発のヒントを得る場とすることを目的に、「産学連携セミナー」を開催いたします。今般は、2026年3月3日(火)に、曾矢麻理子氏〔十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科〕及び北澤裕明氏〔日本女子大学 食科学部 食科学科 食品学・食品包装学研究室〕を講師にお迎えし、『食品開発から包装をつなぐ品質設計 ～SDGs 実現に向けた実社会へのアプローチ～』を主題としてご講演頂きます。本セミナーでは、食品開発から包装までの一体設計を軸に、保存性向上や賞味期限延長によるフードロス削減、栄養・機能性成分を守る食品設計、さらには環境に配慮したサステナブルな食品・包装の実現に向けた取り組みについて、それぞれの専門的視点からご解説頂く予定です。また、ご講演後の「Q&A セッション」では、聴講者の皆様からの課題や疑問にお答えすると共に、講師お二方による意見交換も予定しており、理解を一層深めて頂ける内容となっております。食品開発や食品包装に携わる企業の皆様、並びに教育・研究機関の関係者の方々にとって必見の内容です。ぜひ、本セミナーへご参加賜りますよう、ご案内申し上げます。

記

産学連携セミナー「食品開発から包装をつなぐ品質設計」開催概要

日時：2026年3月3日(火) 15:30～17:00

会場：オンライン開催 (Zoom ウェビナーでのライブ配信)

主題：『食品開発から包装をつなぐ品質設計』～SDGs 実現に向けた実社会へのアプローチ～

講師：講演1 「食品開発の視点から食品包装に求めること ～大学での商品開発を事例に～」

十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科 助手 修士(農学)博士(栄養学) 曾矢麻理子氏

講演2 「食品加工技術としての包装」

日本女子大学 食科学部食科学科 食品学・食品包装学研究室 准教授 博士(工学)博士(農学) 北澤裕明氏

参加費：無料 申込期間：～2026年3月2日(月) 定員：100名

備考 1) お申込みは先着順受付にて定員になり次第終了となります。

2) 聴講はお申込みご本人様に限らせて頂きます。代理聴講ご希望の場合は、事務局までご連絡下さい。

3) 複数名で聴講希望の場合は、希望者様分お申込みください。

4) 聴講方法詳細は、開催前日までにお申込み者様へご案内いたします。

5) 本セミナー内容は、予告なく変更されることがあります。

6) 本お申込みフォームにご入力/ご登録頂く情報は、主催：(一社)日本包装機械工業会からの各種ご連絡に利用いたしますので、予めご了承ください。



一般社団法人 日本包装機械工業会

セミナーの詳細やお申込みについては、[こちらのリンクから](#)、(一社)日本包装機械工業会公式ホームページの[セミナーのご案内](#)をご参照ください。

【お問い合わせ先】(一社)日本包装機械工業会「セミナー」運営事務局

所在地：東京都中央区新川 2-5-6 包装機械会館 3 階(〒104-0033)

 電話：03-6222-2277 / E-mail：seminar@jpmma.or.jp / 担当：森山・佐藤

お知らせ

(一社)日本印刷産業機械工業会他「IGAS2027国際総合印刷テクノロジー
&ソリューション展」出展募集開始のお知らせ

(一社)日本印刷産業機械工業会とプリプレス&デジタルプリンティング機材協議会では、プリプレス、プリメディア、印刷、製本、紙工、ラベル、パッケージング、クロスメディア関連の最新機材・技術・サービスを一堂に会した国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展「IGAS2027国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展」を開催しております。



今回の開催は 2027 年で、最新技術や様々なソリューションを提案するとともに印刷産業の未来を展望できる場とします。また、ビジネス・人材の国際交流を図り、印刷産業および関連産業の活性化と興隆に貢献します。この度、下記の通り、公式ホームページにて出展募集が開始されましたので、ご案内いたします。

新製品の発表やブランド認知の場として最適で、幅広い潜在顧客にアプローチでき、具体的で説得力のあるプレゼンテーションにより受注率アップを狙えます。新製品・新技術・新サービスの詳細な紹介が可能で、大規模なイベントやセミナー・見学ツアーも実施される予定です。この機会に、是非ご出展をご検討ください。

記

IGAS2027 国際総合印刷テクノロジー
&ソリューション展開催の概要

日時：2027年8月5日(木)～8月9日(月)10:00～17:00(初日のみ 11:00～17:00)

場所：東京ビッグサイト 東展示棟

主催：(一社)日本印刷産業機械工業会、プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会

入場料：当日販売 2,000 円、事前登録の場合は無料

申込期間：2025年10月29日(水)～2026年12月18日(金)

2025年10月29日(水)～2026年10月30日(金)までなら**早期申込割引中**

出展対象：本展示会に出展できる出展対象は、デザイン、プリプレス、印刷、製本、紙加工、包装、紙器、シールラベル等の印刷関連機械・システムおよび材料、電子メディア等のデジタルコミュニケーション全般に関する技術・システム・ソフトウェア、印刷技術から派生される技術や製品並びにこれらに関連するソリューション、サービス等です。



[出展の詳細・お申込みは、IGAS2027のオフィシャルサイトをご覧ください。](#)



また、(一社)日本印刷産業機械工業会では、様々な業界情報を、[オフィシャルサイト](#)で公開していますので、併せてご覧ください。

(一社)日本分析機器工業会 『JASIS 2026 (分析機器・科学機器総合展)
— 「測る」が支える未来の社会 —』出展募集開始のお知らせ

[一般社団法人 日本分析機器工業会\(JAIMA\)](#)では、各種分析・計測の入口から出口までの最新情報を発信する展示会として、JASISを毎年開催しています。

科学の進歩を支える分析機器、科学機器メーカーが一堂に会する最先端科学・分析システム&ソリューションが集結する展示会がJASIS(分析機器・科学機器総合展)です。

今年もリアルとオンラインのハイブリット開催で、リアルは 2026 年 9 月 2 日(水)から 4 日(金)までの 3 日間 10 時~17 時、幕張メッセ国際展示場・会議場にて行われます。会場では、約 450 社の出展の他に、約 80 社による 300 テーマのセミナー、注目分野の専門家等による約 50 のセミナー・講演等のイベントが開催される予定です。また、オンラインでは「JASIS WebExpo® 2026」が、2026 年 7 月上旬から 10 月下旬まで、公式サイトにて開催される予定です。昨年は、190 万 PV のアクセスを頂きました。

公式ホームページでは既に、出展募集が開始されましたので、お知らせいたします。3万円から出展可能で、オンライン・リアル共に様々なプランをご用意しております。JASIS 来場者が目にする様々な媒体に、ロゴ等を掲載できるオフィシャル広告も募集中です。また、2 月中旬以降には研究機関、学会、協会などを対象とした展示プランの出展申込み受付開始予定です。この機会にぜひ、JASIS 2026へのご出展をご検討ください。

記

JASIS 2026 — 「測る」が支える未来の社会 — 開催概要

会 期	リアル:2026 年 9 月 2 日(水)~ 4 日(金) の 3 日間 10:00~17:00 オンライン:2026 年 7 月上旬~10 月下旬(予定)
会 場	リアル: 幕張メッセ国際展示場・会議場 オンライン: オフィシャルサイト
主 催	: (一社)日本分析機器工業会、(一社)日本科学機器協会
募集締切	: 2026 年 3 月 13 日(金)

[JASIS 2026 出展募集のご案内パンフレット、ダウンロードサイトはこちら！！](#)



JASISの詳細については、画像をクリックしてオフィシャルサイトをご確認ください。

厚生労働省「春季における年次有給休暇取得促進」について

この度、厚生労働省より当会へ、表題についての協力依頼がありましたので、お知らせいたします。

記

新しい働き方・休み方が始まっています。

年次有給休暇取得促進特設サイトでは、年次有給休暇を取得しやすい環境を整備するために役立つ情報を紹介しています。

また、リーフレット等についてダウンロード出来ますので、ぜひご活用下さい。

各地域で年休取得促進に取り組んでいます詳細については、厚生労働省の特設サイトをご参照ください。

○ 厚生労働省有給休暇所得促進特設サイト

<https://work-holiday.mhlw.go.jp/kyuuka-sokushin/>



癒しのバリ島 サザナミフグ(写真提供:M.W 氏)



機械のチカラ (第13回)



(一社)日本印刷産業機械工業会と印刷機械に関する情報

日機連は、連合会として機械工業と密接な関連を有する様々な業界団体様に「団体会員」として、ご加入頂いております。このコーナーでは、日本の機械工業を支える、当会の団体会員様をご紹介させていただきます。今回は、人類の教育の普及や思想の共有、芸術を伝播に貢献し、現在も文化や情報を発信し続ける書物・新聞・雑誌を製作するための「印刷機械」の工業会様です。

概要: [一般社団法人 日本印刷産業機械工業会](#)は、日本の印刷機械、プリプレス機器、製本機械、紙工機械及び周辺機器の製造者等で構成され、印刷産業機械業界の発展に寄与することを目的に、印刷関連業界全般にわたる調査研究事業、個別テーマを深耕する部会・委員会活動、[Japan Color 認証制度事業](#)、広報活動、そして[国際展示会「IGAS」](#)の開催企画と推進、「Global Print」への参加と意見答申および ISO 標準化推進事業等の活動を展開しています。

歴史: 設立は昭和 12 年(1937)12 月 1 日、平成 29 年(2017)12 月には、80 周年を迎え、平成 23 年 4 月 1 日に一般社団法人に移行しました。

業種: 同工業会の主な取扱い機械は次の通りです。



- ・**印刷機械:** 一般的に印刷は、原稿から版をつくり、これにインキを供給し、形成された像を版から直接あるいは**ゴム胴**などをもちい間接的に、紙などの**被印刷物**に圧力によって転移させることによりなされる。印刷機械はこれを担う装置であり、大量の複製物を製造するために用いられる。
- ・**製版機械:** オフセット印刷やグラビア印刷などで使用する「版(はん)」を作成する機械。
- ・**製本機械:** 印刷された複数枚の紙を丁合(ページ順に重ねる)、断裁、折り、のり付け(無線綴じ)、針金留め(中綴じ)、リング製本等の工程を経て、冊子や本に自動でまとめる機械。
- ・**紙工機械:** 段ボールや紙箱、紙容器などを製造・加工するために使われる機械の総称。

[印刷機械産業の 2024 年の統計値](#)は下表の通りです。

単位:100 万円(前年対比%)

	合計(①-④)	① 印刷機械	② 製版機械	③ 製本機械	④ 紙工機械
生産	196,613(98.7)	141,899(105.3)	4,743(93.8)	12,445(117.0)	37,526(76.9)
輸出	156,819(99.0)	106,925(101.8)	4,992(130.2)	9,049(116.8)	35,852(85.7)
輸入	47,802(111.2)	26,594(116.9)	3,366(114.9)	1,883(115.8)	15,759(101.7)

[Japan Color 認証制度事業](#)は、日本独自のオフセット印刷の色の標準規格「Japan Color」に基づいて、印刷会社が安定して高品質な印刷物を出力できる技術と能力について、第三者機関として評価・認証しています。印刷物の色の再現性を標準化し、デザイナーや発注者の意図を正確に伝え、不要な修正や刷り直しを減らすことで、印刷品質の向上とコスト削減、環境負荷低減を目指します。認証の種類は、標準印刷認証、マッチング認証、プルーフ運用認証、プルーフ機器認証、デジタル印刷認証の5つがあります。



[印刷関連機械の業界専門団体、\(一社\)日本印刷産業機械工業会のホームページリンクはこちら!!](#)

